

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑 (1Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡公園に隣接して環境に良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。 ・職員教育に力を入れ、資格取得や研修などでスキルアップを図り地域に貢献できるグループホームを目指しています。 ・御家族・地域の方々との信頼関係を深める為に年に1度、御家族・御利用者・町内会・職員の合同親睦会を行っています。 ・利用者への支援として外出の機会を多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の平均勤続年数は、圧巻の8、17年。事務長や管理者を除く、一般職員16名の内半数が勤続10年以上で、全員がヘルパー2級、15名が介護福祉士、6名が介護支援専門員資格を取得しています。それこれも事業所が「職員の成長を願い、此处で高齢者福祉に貢献できる人材になって欲しい」として、費用負担などに尽力しているからで、職員もその期待に応えています。今年も2名が介護支援専門員試験に合格していて、給与もアップしています。またレクリエーションが得意な職員も居て、壁紙に利用者の特徴をとらえた似顔絵を作成したり、調理師資格のある職員がそばを打つ日もあり、其々ができることで活躍できています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。会議等でも理念基本を話します。	事業所の玄関に運営理念が掲示され、社員証の裏にも記載があり、年に1回はユニット会議で理念について説明していると確認できる書面もあります。理念に記載された利用者の尊厳は、プライバシー保護マニュアルで確認するよう指導しています。	例えばスローガフのような簡単な言葉で職員に落とし込むとか、理念のなかから職員の年間目標を作成するなど、理念の浸透、達成を確認する仕組みがあることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営会議や地域行事参加及び登呂公園散策等、地域との交流を図りながら、関係を深めています。	10月の登呂祭り(「登呂祭り感謝販売」として、利用者が売り子となるのは恒例となり、10年続いています。ジャガイモやりんご、みかん等を事業所で仕入れて格安で提供して、地域の皆さんに喜ばれています。また同じく婦人会や子ども会の手踊りも披露され、利用者も興に乗って踊っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています。楽寿会(老人会)との意見交換も行い、認知症、介護の考え方などを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を通して地域情報を得たり、利用者の状況を説明し、サービスの向上に繋げています。民生委員の方、地域包括職員の方からのアドバイスを頂いています。	行政、地域、家族、事業所と、定例メンバーでの開催は4回、他2回は楽寿会(地域の集まり)を招き、「知りたいだろうなと思うこと(便秘や介護のこと)」の質問コーナーや、地域の相談事を聞くようにしていて、民生委員につなぐなど解決に尽力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図ってます。その他必要時、介護保健課等との連絡をとり、業務遂行を行っている。生活支援課との交流や連絡が多いです。	年に1回、市役所窓口には運営推進会議の予定表と案内状を提出し、地域包括支援センターには議事録を渡しています(市役所は包括が把握していれば可とのこと)。常日頃から電話で問い合わせたり、時には出向くこともあり、また生活支援課からは1ヶ月に1度の来訪があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習及び身体拘束ゼロの手引き等を利用し身体拘束をしないさせないケアに取り組んでいます。	玄関はオープンで地域や家族が気軽に訪れています。フロアに入る扉はオートロックですが、利用者が「出たい」と言えば職員が付き添い気持ちに対応できています。また年間教育計画に「身体拘束・虐待防止についての理解」と題する学習の機会も設けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供することにより、虐待防止の徹底を図ってます。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により周知し、運営会議等で現状の話し合いを行ないました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者を決めて実行しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会で意見やアンケートをとって、運営会や各ユニット会議に反映させています。	介護計画を説明する際にも家族から要望を得ていますが、年に1度家族アンケートをとり、日常の介護で特に気をつけて欲しい事(食事、入浴、整容、健康と細目に分けている)についてコメントをお願いしています。また必要と感じれば面談の場も随時つくっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議にて意見提案を聞き反映させている。その他意見箱及び個別アンケート、個別面接にて意見の収集を図り反映させています。	「第三者苦情受付」として外部機関を使っていますが、今のところ職員からの苦情はありません。ユニット会議の前にリーダー会議をおこなうことで職員間の協議を有意義なものとし、職員アンケートではトイレにウォシュレットがついたり、電話器が新しくなったりと要望が通っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意識を持って職場の環境整備に努めています。資格取得に資格給及び援助を行い意識の向上を図っています。また個別面接を通して個々の希望にも配慮し、年昇給もとりました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等にて社内教育を行い職員教育に取り組んでいます。個別面接を通して個々の希望にも配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通して勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では専属の担当者を通して、信頼関係を築き安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では専属の担当者及びリーダー・各ユニットのサブを通して信頼関係を築き要望に耳を傾けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を定めて必要な支援の見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の基本及びグループホームの持つ役割を教育し、利用者との関係を構築してます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営会等を通して利用者は、ご家族と一緒に支え合う事を説明。ご家族へアンケートを書いて貰い御意見を聞きながら関係を築いています。またスタッフの思いや本人の思いも、ケアプラン説明時に家族に話し支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と協力し行ってます。	編み物が趣味の人はマフラーなどを編んだり、新聞を読むのが好きな男性利用者には家族が新聞をまとめて届けています。孫と携帯電話でメールのやり取りをしたり、家族と一緒に外食したり墓参に出たりする人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のそれぞれの状況を把握し利用者同士が関われるように努めています。難しい方には職員にて対応し孤立しない様に配慮をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移先等にも伺い関係を持続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やケアプランを活用し思いや意向の把握に努めています。	利用者の発言や思いへの気づきは、日報や連絡ノートに記載しています。また介護計画書の7表では、入浴介助の時「男性だと気恥ずかし～」、携帯電話を持ちながら「死ぬ時に妹の声を聴きたいのよ」といった具合に時系列に沿って本人の言葉で細かく記載してあることを確認できます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階は責任担当者により聞き取りを行います(アセスメントシート)。その後は利用者担当者及びユニット会議等にて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議やケアプランを活用し暮らしの現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネージャー及びスタッフより利用者御家族の声を聞き、ユニット会議にてスタッフの意見等で内容を検討し、介護計画及びモニタリングを実施しています。	やよい苑便りでは毎月、「面会時にはケアプランの説明をします」という文言を投げかけています。介護支援専門員資格を6名がもち、現在2名ずつ4名が各ユニットで介護計画書が作成され、1表の意向欄が本人が話す言葉で記載されている事に安心感を覚えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報記録を基に、ユニット会議にて利用者の状況を把握し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置に考慮し柔軟に対応する状況を構築しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂遺跡公園や地域の人達とのふれ合いにより支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望を基本として受診援助を行っています。それ以外の利用者も当苑協力医院の往診を受け、安心した支援を行うよう努めている。	携帯電話で24時間連絡可能な協力医に全員が変更しています。専門医は家族の送迎が前提ですが、実際は職員が対応することが増えていきます。看護師は週2～3回(週8時間以上の契約)訪れて日々の健康管理を担っており、既に5年通い続けていて利用者を十分把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当苑職員の看護師と協働し行っています。その他かかりつけ医の看護師や地域包括の看護師との意見も頂きながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を通して行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重要説明書にて内容の説明を行い、現実が発生しそうな時、担当者より再度具体的に説明を行い支援に努めている。基本的に利用者御家族と協力して行う事を原則としてしています。	契約時に看取りの条件等を家族に説明していますが、看取りと宣告されたものの苦しむ様子を家族が見ていられないと病院搬送となったりと実績は無く、職員にも経験者はいません。その時慌てないよう、リーダーが研修で身に着けた知識を職員に伝達しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習や研修で実践力を身につけるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練等で実践力を身につけるように努めています。	防災訓練は5月と11月、開催月を定めて実施しています。訓練では火災受信機の説明のほか、利用者と伴に消火器の使い方やスプリンクラーの点検状況を確認しています。備蓄の米は100kgの準備があり、炊き出しもおこなったことがあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っているものの、声掛けや対応が雑になっている時もある。	ユニット会議で取組む年間教育では「プライバシー保護」「認知症ケア」「介護従事者の接遇」への理解、と題した研修機会を設け、リーダーが資料作成、講師を担当しています。また職員は「利用者、家族が求めるプロとしての接遇マナー」という資料からも学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解してそれぞれ利用者にお任せしておりますが、利用者が困った時やご自分でできない方には支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等のできる利用者にはお願いして、食事を一緒に楽しめるように支援に努めています。	火・金曜日の午後を食材の買い出しと定め、利用者と一緒に掛かっています。1階と2階のユニット毎にメニューが異なり、肉団子や鯖のムニエル、里芋の餡かけといった家庭的でボリュームのある献立が提供されています。どら焼きづくり等おやつで食レクを楽しむ日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に応じて臨機応変に応じています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、できる方には御自分でして頂き、自分でできない方にはマウスウォッシュ等を使うがいや歯磨き等支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	よく理解して利用者にあった支援を行っています。	日報には1日の排泄回数を正の字で記載するほか、確認がとれにくい人はトイレに入った後にリハパンの汚染有無を確認したりなどの配慮で把握が叶っています。普段から散歩を心掛け、職員宅の畑で採れたさつま芋をふんだんに食卓に並べて便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師との連携をとり便秘予防の対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は8時50～10時ぐらいまでに、3人ずつ入れております。	1名がシャワー浴となっていますが、他は週2回湯船にゆったり沈むことができます。使用後の清掃は徹底されており、開設より10年以上経過していますがカビが生えておらずタイルのひびも無く、清潔です。浴剤は3～4種類常備して乾燥対策としても使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく理解して利用者にあった支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者をよく観察し、長期安定している時は薬を医師に相談して減らして貰ったり、その都度症状により医師や看護師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	よく理解して利用者にあった支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自宅の利用、登呂公園、ショッピングセンターやドラックストア等、スタッフが臨機応変に支援しています。	13～15時を散歩や外気浴タイムとしています。4月、登呂遺跡の水田にコウノトリが飛来した折は丁度散歩の最中で、利用者がテレビ局のインタビューを受け、良い思い出となりました。護国神社初詣に始まり、花見や足久保の莓狩り、掛川花鳥園へとフットワークも軽く外出が叶っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に理解を求め支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に予め確認を取らせて頂き支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵や飾り、壁に折り紙で作った壁紙等、スタッフの個人の技術や感性を活かし工夫をしています。	1階の廊下は床を張り替え一新し、クリスマスの時節柄ツリーやサンタクロースの壁画や天井からのモールが下がり華やかです。大きな加湿器が乾燥対策として、またホワイトボードには「本日のメニュー」が掲示されて愉しみを増やしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	理解して努力しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力を頂きながら努力している。	1階の居室前には暖簾がかかり、一つずつ違うことでその人らしさを感じられます。大好きなコーラを常備する冷蔵庫があったり、位牌や仏壇の持ち込がある部屋では利用者本人が毎日お経を唱えています。また介護用ベッドは事業所に6台備えがあり、必要に応じて変更できます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解して努力しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑(2Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡公園に隣接して環境に良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。 ・職員教育に力を入れ、資格取得や研修などでスキルアップを図り地域に貢献できるグループホームを目指しています。 ・御家族・地域の方々との信頼関係を深める為に年に1度、御家族・御利用者・町内会・職員の合同親睦会を行っています。 ・利用者への支援として外出の機会を多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の平均勤続年数は、圧巻の8、17年。事務長や管理者を除く、一般職員16名の内半数が勤続10年以上で、全員がヘルパー2級、15名が介護福祉士、6名が介護支援専門員資格を取得しています。それこれも事業所が「職員の成長を願い、此处で高齢者福祉に貢献できる人材になって欲しい」として、費用負担などに尽力しているからで、職員もその期待に応えています。今年も2名が介護支援専門員試験に合格していて、給与もアップしています。またレクリエーションが得意な職員も居て、壁紙に利用者の特徴をとらえた似顔絵を作成したり、調理師資格のある職員がそばを打つ日もあり、其々ができることで活躍できています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。会議等でも理念基本を話します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議や地域行事参加及び登呂公園散策等、地域との交流を図りながら、関係を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています。楽寿会(老人会)との意見交換も行い、認知症、介護の考え方などを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を通して地域情報を得たり、利用者の状況を説明し、サービスの向上に繋げています。民生委員の方、地域包括職員の方からのアドバイスを頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。その他必要時、介護保健課等との連絡をとり、業務遂行を行っている。生活支援課との交流や連絡が多いです。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習及び身体拘束ゼロの手引き等を利用し身体拘束をしないさせないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供することにより、虐待防止の徹底を図っています。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により周知し、運営会議等で現状の話し合いを行ないました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者を決めて実行しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会で意見やアンケートをとって、運営会や各ユニット会議に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議にて意見提案を聞き反映させている。その他意見箱及び個別アンケート、個別面接にて意見の収集を図り反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意識を持って職場の環境整備に努めています。資格取得に資格給及び援助を行い意識の向上を図っています。また個別面接を通して個々の希望にも配慮し、年昇給もとりました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等にて社内教育を行い職員教育に取り組んでいます。個別面接を通して個々の希望にも配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通して勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では専属の担当者を通して、信頼関係を築き安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では専属の担当者及びリーダー・各ユニットのサブを通して信頼関係を築き要望に耳を傾けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を定めて必要な支援の見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の基本及びグループホームの持つ役割を教育し、利用者との関係を構築してます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営会等を通して利用者は、ご家族と一緒に支え合う事を説明。ご家族へアンケートを書いて貰い御意見を聞きながら関係を築いています。またスタッフの思いや本人の思いも、ケアプラン説明時に家族に話し支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と協力し行ってます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のそれぞれの状況を把握し利用者同士が関われるように努めています。難しい方には職員にて対応し孤立しない様に配慮をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移先等にも伺い関係を持続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やケアプランを活用し思いや意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階は責任担当者により聞き取りを行います(アセスメントシート)。その後は利用者担当者及びユニット会議等にて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議やケアプランを活用し暮らしの現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネージャー及びスタッフより利用者御家族の声を聞き、ユニット会議にてスタッフの意見等で内容を検討し、介護計画及びモニタリングを実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報記録を基に、ユニット会議にて利用者の状況を把握し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置に考慮し柔軟に対応する状況を構築しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂遺跡公園や地域の人達とのふれ合いにより支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望を基本として受診援助を行っています。それ以外の利用者も当苑協力医院の往診を受け、安心した支援を行うよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当苑職員の看護師と協働し行っています。その他かかりつけ医の看護師や地域包括の看護師との意見も頂きながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を通して行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重要説明書にて内容の説明を行い、現実に発生しそうな時、担当者より再度具体的に説明を行い支援に努めている。基本的に利用者御家族と協力して行う事を原則としてしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習や研修で実践力を身につけるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練等で実践力を身につけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っているものの、声掛けや対応が雑になっている時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解してそれぞれ利用者にお任せしておりますが、利用者が困った時やご自分でできない方には支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等のできる利用者にはお願いして、食事を一緒に楽しめるように支援に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に応じて臨機応変に応じています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、できる方には御自分でして頂き、自分でできない方にはマウスウォッシュ等を使うがいや歯磨き等支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	よく理解して利用者にあった支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師との連携をとり便秘予防の対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は8時50～10時ぐらいまでに、3人ずつ入れております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく理解して利用者にあった支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者をよく観察し、長期安定している時は薬を医師に相談して減らして貰ったり、その都度症状により医師や看護師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	よく理解して利用者にあった支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅の利用、登呂公園、ショッピングセンターやドラックストア等、スタッフが臨機応変に支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に理解を求め支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に予め確認を取らせて頂き支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵や飾り、壁に折り紙で作った壁紙等、スタッフの個人の技術や感性を活かし工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	理解して努力しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力を頂きながら努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解して努力しています。		